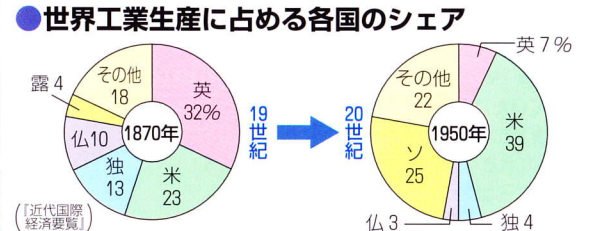


3 戦後のヨーロッパ諸国 (R2021年, 211年)

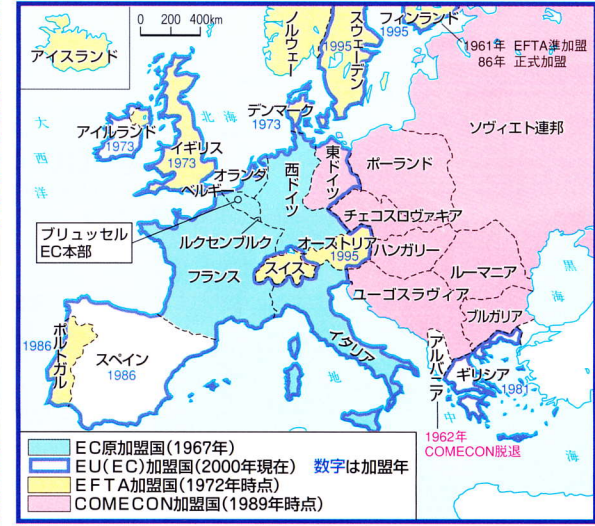
東方外交関連

イギリス	フランス	ドイツ(西ドイツ)	その他の国々
1945 アトリー(労働党)内閣 ○社会福祉政策(「ゆりかごから墓場まで」) 重要産業の国有化	1944 フランス臨時政府成立 1946 第四共和政(フランス連合)成立 ○共産党・社会党・人民共和派の対立	1945 四か国分割占領 1948 ベルリン封鎖(〜49) 1949 ボン基本法でドイツ連邦共和国成立 アデナウアー(キリスト教民主同盟)内閣	1943 伊 キリスト教民主党結成 1946 伊 王政廃止, 共和政に(デ・ガスペリ内閣) キリシヤ 王政復活
1949 エールの英連邦離脱	ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(ECSC)…1952発足, フランス・西ドイツ・ベネルクス3国・イタリア		
1951 チャーチル(保守党)内閣	1954 バリ協定で主権回復 1955 再軍備・NATO加盟 ソ連・西独国交回復		
1952 核兵器の保有	1952 キリシヤ NATO加盟 1955 オーストリアオーストリア国条約(永世中立)		
1955 イーデン(保守党)内閣	1956 スエズ戦争への介入失敗		
1957 マクミラン(保守党)内閣	ヨーロッパ経済共同体(EEC)(ヨーロッパ共同市場)…1958発足, ECSC6か国で構成した経済統合体		
ヨーロッパ原子力共同体(EURATOM)…1958発足, EEC6か国で構成			
1958 第五共和政(フランス共同体)成立			
1959 ド=ゴール, 大統領に就任			
1960 核兵器の保有			
1962 アルジェリアの独立			
1964 中国の承認			
ヨーロッパ共同体(EC)…1967発足, EEC・EURATOMが合併			
1961 東ドイツが「ベルリンの壁」建設 1963 エアハルト内閣 ○経済危機 1966 キーゼンガー大連合内閣(キリスト教民主同盟・キリスト教社会同盟・社会民主党)			
○イギリスの国際的地位低下続く			
ヨーロッパ自由貿易連合(EFTA)1960発足			
1963 フランスの反対でEEC加盟失敗	1967 キリシヤ 軍事クーデタ		
1964 ウィルソン(労働党)内閣	1968 五月危機		
1967 ポンド切り下げ	1969 ド=ゴール辞任, ポンビドゥー政権		
1968 スエズ以东より撤兵	1970 ソ連・西独武力不干涉条約 西独・ポーランド条約		
1969 北アイルランド紛争	1972 東西ドイツ基本条約		
1970 ヒース(保守党)内閣	1973 東西ドイツの国連加盟		
拡大EC…1973成立, イギリス・アイルランド・デンマークが新たに加盟			
1974 ウィルソン(労働党)内閣	1974 ジスカール=デスタン政権	1974 シュミット連立内閣(社会民主党・自由民主党)	1973 伊 共産党のユーロコミュニズム路線
1979 サッチャー(保守党)内閣	1981 ミッテラン(社会党)連合政権	1982 コール(キリスト教民主同盟)内閣	1974 ホルトガル ホルトガル民主化
1982 フォークランド戦争	1989 フランス革命200年祭	1989 「ベルリンの壁」開放	1975 スペイン フランコ死, プルボン朝復活
1985 北アイルランド協定	1989 アルシュ=サミット開催	1990 東西ドイツの統一	1981 キリシヤ EC加盟
1990 メージャー(保守党)内閣	1992 マーストリヒト条約調印 →ヨーロッパ(欧州)連合(EU)…1993.11発足, EC12か国		
1997 ブレア(労働党)内閣	1998 シュレーダー内閣		

4 統合へのあゆみ



5 ヨーロッパの経済協力機構(冷戦時)



NON! フランスによるイギリスのEEC加盟反対

1963年, 米ソの二極支配に反対し「フランスの栄光」を唱え, 独自の外交をとるド=ゴール仏大統領は, EEC内でのフランスの優位を守るため, アメリカの影響を受けるイギリスの加盟申請に強く反対した。

▶プラントの「東方外交」 1969年連立内閣の首相となったプラントは, チェコ事件(1968)以降冷えきった東側諸国との関係改善のため一連の「東方外交」を展開, 1970年代の「デタント」の一翼を担った。ポーランドとの国境としてオーデル=ナイセ線の承認(1970), 東独の承認(1972)などは後にソ連の譲歩を引き出した。

ド=ゴール仏大統領 (現代の世界講義社より)

ケネディ米大統領

マクミラン英首相

プラント西独首相

ワルシャワのゲット一跡(1970年12月7日)

●新保守主義と西欧の復権

戦後の西欧では, 保守主義と社会民主主義が二大政治勢力を形成してきた。1980年代に保守主義が高まるとサッチャー政権(英)やコール政権(西独)は, 経済優先の政策を打ち出し(新保守主義), ド=ゴール路線を継承するミッテラン社会党政権(仏)に接近した。欧州統合の動きと合わせ, 西欧復権の期待が高まった。

▶ヴェネツィアサミット(1987年6月9日)

保守主義 社会民主主義

1980年代

新保守主義 対立 接近

冷戦終結の動き

●一定の福祉と経済回復

●欧州統合

サッチャー首相(英) ミッテラン大統領(仏)

中曽根首相(日) レーガン大統領(米)

コール首相(西独)